

就任時の学会を振り返って

(’92年6月～’94年3月 学会大会22回～23回)

第5代理事長 黒田 信 寛

’92年、6月の総会で役員改選がおこなわれ、田中理事長の後任として、私が新理事長に押された。その任にあらずと一度はお断りしたが、理事会の互選だからと留意され、新理事の先生方も協力するから是非にということでその場はやむなく一期という条件で理事長という大任をお引き受けすることになった。お引き受けしてみても、学会運営の責任の重大さを痛感し果たして大過なく運営して行けるかどうか非常に不安になった。振り返って見ると就任前の当時の学会は非常に困難な危機的状況下にあったといえる。事務局の交代による事務不慣れのため学術会議への書類提出のおくれにより学術会議登録団体の無効、学会機関紙レクリエーション研究の発行のおくれ、学術刊行物の郵送手続をとらなかつたための郵送費の増大、又学会費未納者も非常に多く特に財政上は厳しいものがあつた。上記のような状況下で青山学院大学から聖学院短期大学に事務局も移り、新理事会が発足し、次の様なことに鋭意取り組んだ。

1. 財政の立て直し。先ず会費の徴収を良くするために、会員の確認、名簿の整備に着手し事務局の大変な御努力により92年6月に会員名簿を発行することができた。これにともない会費未納者への再三の督促により会費の徴収も漸次よくなつてきた。又会員諸君の努力により新入会員の入会も逐次増えてきた。然し学会の財政は如何ともし難く、各支部にお願いして支部援助金を当分の間打ち切つてを御諒解いただいた。財政立ち直しの一環とはいえ支部活動の根源である支部援助金を割愛していただいたことは非常に心苦しいものがあつた。
2. 学会誌の発行は、会員からの論文がなかなか集まらず遅延ぎみであつたが編集部の御努力と会員の御協力により学術団体登録までに何とか遅延の解消にこぎつけることが出来た。
3. 日本学術会議登録団体の登録申請については、93年3月に小委員会を作り準備を整え4月下旬申請、9月に登録団体として正式に認められ、会員の皆様に対して責務の一端を果たしほつとした思いであつた。深山氏の文部省の折衝など、その労を名としたい。
4. 学会大会開催については、日本レク協会から独立分離して学会の独自性を確立して行くことは、数年に亘り大きな検討課題であつたが、学会大会への本部からの援助金はわずか20万であり、その他の必要経費は、参加費、広告料、当該大学からの助成金等で賄わなければならない苦しい綱渡りの運営を強いられていた状況下で会場校を探するのはなかなか困難であつた。20回大会（明治大学）からやっと自前の学会大会を持つことが出来るようになった。在任中の大会であつた22回大会（立教大学）は大学の御理解と石井允氏の御尽力により、立教大学で開催することが出来た。当大会に対しては本部事務局から大会援助金は支出しておらず、大会運営にあつては大会事務局は並大抵の御苦勞ではなかつたと思われる。本部からは赤字分38,595円を負担したに過ぎなかつた。学会大会の反省をふまえて、次期大会からは大会援助費は次期会場の決定次第早期に渡すように決定した。23回大会は山市氏の御儘力により埼玉大学で無事開催出来たことに感謝している。在任2年間を振り返つて、事務局は献身的によくやり会の運営を支えてくれたが、後半には理事会と事務局の間の多少の行き違いから事務の停滞なども多々出て来、意志の疎通の難しさを改めて痛感しているところである。最後に在任中の理事諸氏の御協力と事務局の御苦勞に対して心から感謝いたします。